

対談

健全な社会支える「マトリ」の仕事

麻薬取締官×薬学生

薬物犯罪撲滅へ日々奮闘

麻薬取締官、通称「マトリ」。“少数精鋭”“危険なお仕事”というイメージが先行する職業だと思います。大学でもおそらく詳しくは教えてもらえないと思われます。本日は、不正薬物の犯罪捜査を行っていらっしゃる加藤さん(仮名)に、謎に包まれた麻薬取締官の「ぶっちゃけ」をお話していただきました。

(聞き手=2020年度広報部 日本薬科大学4年・山沢智 東邦大学3年・小林幸恵 同3年・芝口歩那)



対談はウェブ会議システムを利用して行われた

一瞬の行動見逃さず証拠収集 乱用防止啓発や鑑定業務も

—なぜ麻薬取締官を志したのか教えてください。

麻薬取締官を志した理由は、麻薬取締官と聞いてカッコいいと思ったからです。大学の授業で先生に紹介され、「こういう仕事があるんだ」と、とても興味を持ちました。

—麻薬取締官になるために努力すべきこと教えてください。

最も大切なのは薬剤師の国家試験に受かることだと思います。せっかく内定が出されても国試に落ちてしまうと、全てが取り消しになります。まずは薬学生として日々の勉強を頑張ってください。

—麻薬取締官のお仕事は具体的にどのようなものがありますか。

大きく五つです。一つ目は規制薬物の捜査で、特別司法警察員として薬物犯罪にの捜査を行います。捜査業務には全体の7~8割の人員が配置されて

います。二つ目は癌の疼痛緩和に使われる麻薬など、正規流通麻薬の流通を監視・指導する仕事があります。三つ目は薬物乱用防止啓発活動や講演です。四つ目は薬物を使ってしまった人が再度乱用することを止めるための薬物再乱用防止対策です。五つ目は押収物件を鑑定する鑑定業務です。

—犯罪捜査はどのように行われるのですか。

薬物捜査に関しては、麻薬取締官は警察官と同じ権限を有しており、被疑者を逮捕して取り調べ等をします。例えば、Aが薬物を密売しているという情報を入手した場合、Aに対する捜査を開始します。

Aの行動を把握するため、Aの住んでいる部屋の張り込み捜査を行い、Aが家から出てきたら徹底的な尾行を行います。薬物の密売人ですから、いつかは薬物の密売を行います。

薬物密売行為は、路地で、すれ違いざまに「ブツ」と「金」を交換するなど、一瞬の出来事です。その一瞬の行動を見逃さず確認し、証拠を積み重ねていきます。

証拠収集をした上で、裁判所に令状を請求し、部屋などに踏み込んで捜索します。捜索の結果、規制薬物が見つかれば現行犯逮捕します。

逮捕した後は取り調べが始まります。取り調べでは事実関係を明らかにして、検察官に被疑者を起訴(裁判所に審理を求めること)してもらうまでが基本的な一連の捜査の流れです。

—危険を伴うお仕事というイメージがあるのですが、危険を感じた経験はありますか。

いかにリスクをコントロールして事故に遭わないかということプロとして意識しています。例えば、人は不意に声をかけられると何も抵抗できません。そのような相手が油断しているときに狙い、取り押さえて捜索に入ったりします。

刃物が刺さらないようなチョッキを着たり、拳銃を携行したりすることもあります。相手に刃物を持たれた時点で負けです。相手に刃物を持たれたりしないように小さなリスクを全部積み取った上で、犯人を確保します。危険と隣り合わせの一か八かの仕事はしていません。麻薬取締官は戦後に組織されましたが、未だに殉職者は一人も出ていません。

手口巧妙化 様々ことに興味を 薬学の知識 監視などに応用

—麻薬取締官として働く上で、モチベーションになるものがあれば教えてください。

この仕事はあまり人から感謝されません。でも、われわれが少しでも薬物を押収することによって今後薬物を使う人が減り、その人の人生が明るくなり、困っている家族が助かるかもしれ

ない。そんな使命感がモチベーションです。

日本でも薬物使用の若年化が問題になっていますが、薬物が広まっている社会では、子供たちが悩んだときに薬物に手を出す可能性があります。そもそも薬物がなければ、いくら自暴自棄

“患者”と“医療者”による本当のチーム医療とは!?



患者参加型 医療

本当のパートナーシップの実現を目指して

医療のこれからのあるべき姿である「患者参加型医療」。その考え方を広め、実現するために、患者と医療者双方の立場から“わかりやすさ”をコンセプトに概念や課題などを詳述した一冊。

[編著者] 岩堀 禎廣

[著者] 鈴木 信行
有田 悦子

[目次]

- 第1章 患者参加型医療とは？
- 第2章 なぜ、患者は薬を飲まないのか？
- 第3章 患者視点のない医療者は生き延びれない
- 第4章 患者の想いを共有するために～薬剤師と患者のコミュニケーション～
- 第5章 最初の一步は薬剤師から！

A5判/104頁/定価1,800円+税

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ (<https://yakuji-shop.jp/>) または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。